

申4号

「船橋統括センター」発足に関する解明申し入れ

2024年7月26日 提出

JR東日本は「変革2027」に基づき、「鉄道起点」から「ヒト起点」のサービスへ転換を進めています。この施策により、社員の成長意欲に応えるためとして、営業統括センターと統括センターが設立されましたが、現実には主な業務の要員不足が顕著で、組合員・社員の負担が増大し疲弊感が広がっています。さらに、専門知識・技能・経験を持つ社員の減少によって安全に大きく関連する事故・事象を引き起こしており、安全管理体制や施策実施後のトレースが不十分であることが問題の本質を覆い隠し、課題を複雑化させています。

「京葉線快速廃止ダイヤ改正」

利用者無視

地域無視



乗務員基地再編運輸区化
から

統括センター化への変更

現場無視

申し入れ事項

1. 乗務員基地再編成・運輸区構想から統括センターに変更する理由を具体的に明らかにすること。
2. 船橋営業統括センターの解消にあたり、これまでの成果と課題を具体的に明らかにすること。
3. 船橋統括センターを新設する目的と根拠について具体的に明らかにすること。また、船橋統括センターの組織体制および業務内容を示すこと。
4. 船橋統括センターにおける各駅および乗務員などの業務区分(ユニット等)に対する出面数を具体的に明らかにすること。
5. 船橋統括センターの発足時期を2024年12月とした根拠を具体的に明らかにすること。
6. 武蔵野線・京葉線における輸送サービス品質の向上や船橋エリアにおける沿線価値の向上に対する展望と具体的方策を明らかにすること。
7. 船橋統括センター発足に伴う社員説明会および教育等の計画を具体的に明らかにすること。



培った専門知識・技能・経験
人事異動乱発で現場に根付かぬ心配